



2014年4月7日

会員卓話

『私の履歴書』

中川 勉 会員

20代(1980年代)は、監査法人勤務で全国の工場・支店を出張し、30代(1990年代)はベンチャー立ち上げ・株式公開準備の仕事をし、バブル崩壊後、40代(2000年代)には、ある倒産法弁護士と企業再生をした。

「依頼された会社は絶対つぶさない」という意気込みでとりくみ、一般的な法的・私的手続き以外に、緊急な資金繰りのアドバイス、赤字事業のリストラ、P-D-C回復のため経営会議の運営をした。負債600億円・債権者4,000人のゴルフ場に7年間かかり、その最後に弁護士が急逝した。

昨今、企業再生は、経済学者から本来淘汰されるべき企業を生かし、ゾンビ企業を生み出して日本経済の回復を阻害したと批判されているが、当否は不明。

50代(2010年代)の今は、普通の会計事務所として中小企業へのサービスをしている。

趣味はハイキング。



『私の業界:江戸城寛永度天守を再建する!』

.. 魅力と活力ある新しい国づくりのシンボルとして .. 小竹直隆 会員

★東京は世界都市とは言えない:

東京は、世界5大都市の一つと言われるが、ロンドン、パリなどにある、その国の歴史、伝統、文化を代表するモニュメントがない。観光立国日本が叫ばれて久しいが、このままでは、東京は世界の都市間競争に大きく立ち遅れることになり兼ねない。

★江戸城寛永度天守を、2020年を目途に、再建する:

1657年の明暦の大火で焼失した江戸城寛永度天守は、日本一壮大で、美しい城だったと云われている。この城の台座だけは修復されて皇居東御苑に遺されているが、そこに夏季オリンピックが開催される2020年を目途に、この天守再建が実現すれば、必ずや、新しく生まれ変わった東京に、世界の目が集まるであろう。

★これまでの歩み、そして、これから:

私たちは、何のバックも持たない一市民団体だが、平成18年のNPO法人設立以来、この天守を再建すべく営々と運動を続けて来た。お蔭様で、本年3月末現在、会員総数は約3,500名に達し、この間、日本都市計画学会や日本経済研究所、更に全国の新聞、TV

などマスコミでも、大きく取り上げられるようになった。

今後は、この城を建てる為の再建、事業運営主体構想を固めると共に、文化庁、宮内庁等への出願という大きな課題があるが、国民各界、各層からの声が再建に向けて澎湃として湧き起これば、この夢は必ずや実現する・・と信じている。

★“坂の上の雲”を目指して、後世の若い人達に、夢と希望、自信と誇りを:

この江戸城天守が再建されれば、それは必ずや、「後世の若い人達が、この国の未来に夢と希望、自信と誇りを持てる・・日本の宝になる!」ことを信じている。

このテーマに関心を持つ皆さまの力が集まれば、そこに至る道が如何に険しくとも、“坂の上の雲”を目指して、一歩、一歩、足を踏みしめて登り続けられれば、必ずや道は拓けると信じる。皆さまからの大きなご支持とご支援を、心からお願いしたい。

